

<ゾーニング素案について／アーバンデザイン専門家>

これまでのワークショップの振り返り



まちづくり方針の検討範囲



ワークショップのご意見 主要テーマとキーワードの整理

- ・緑 （都市農地、里の杜、雑木林）
- ・農 （体験農園、市民農園、直売所）
- ・コミュニティ（地区公会堂、遊び場）
- ・交通 （遊歩道、歩車の分離）
- ・健康 （スポーツ広場、散策）
- ・自然 （ビオトープ、水と土）
- ・商業 （道の駅、ファーマーズマーケット）
- ・環境 （環境配慮、地域防災） など

1

ゾーニング作成に向けた新たな検討の論点整理

テーマとキーワードの 連環

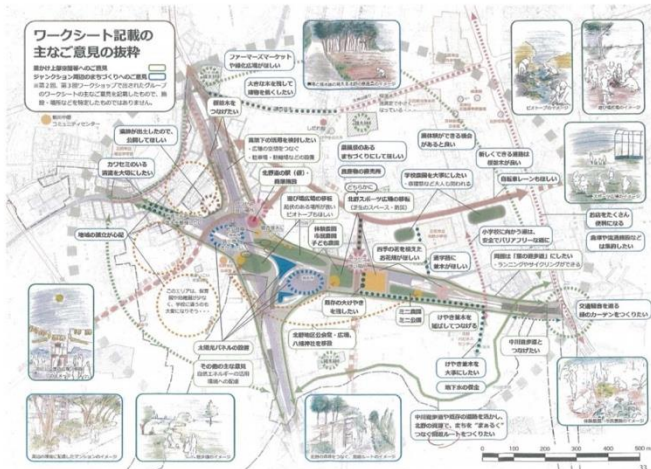


ゾーニング作成検討の 論点

- ① 蓋かけ上部空間等と周辺地域との**一体的なまちづくり計画の検討**
- ② 空間配置においては施設整備を中心とした**利用プログラムの検討**
- ③ 将来の公園運営（自主的活動や**維持管理を視野に**）の**方向性の検討**

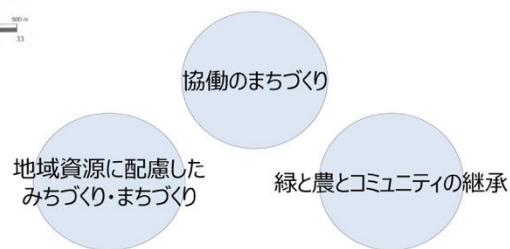
2

北野の「緑と農のある風景」の未来図を考える



蓋かけ上部空間等とその
周辺のまちづくりを一体的
に進める具体的な方向性
を示すゾーニングを市民の
皆さまで考える

平成25年度北野の里（仮称）を
中心としたまちづくり
ワークショップ報告書（抜粋）
北野の緑と農とコミュニティの暮らし
北野らしい風景の継承



3

地域環境特性の整理

土地利用特性



- ジャンクション周辺の緑地面積は外かく環状道路等の整備で約6ha減少する。
- ジャンクション周辺の農地面積は外かく環状道路等の整備で約6ha減少する。
- 中央高速道路は高架で存在し、外かく環状道路本線は大深度地下に整備される。
- 中川遊歩道や仙川など住民に親しまれてきた散策路が多数存在する。
- 外かく環状道路の周辺には、都市計画道路の整備が進められている。
- 用途地域の変更、地区計画の策定が検討される。
- 景観重点地区や景観重要公共施設の位置づけを検討している。

4

地域環境特性の整理

歴史的特性



- 三鷹村北野は55軒の農家、大正時代は畑（麦、さつまいも）や養蚕（冬の副業）、昭和初期に養蚕から野菜畑へ、仙川の湧水で鰻が採れた。
- 吉祥寺通り（都道117号線）は二間半道路、荷車で甲州街道へ出ていた。
- 北野町会では、お神輿、盆踊り、運動会、防犯活動などを行い、農業を媒介に良好なコミュニティが育まれてきた。
- 北野スポーツ広場や北野遊び場広場は、地域の子もたちが自由な発想で遊ぶことができる貴重な場所であった。

5

地域環境特性の整理

景観的特性

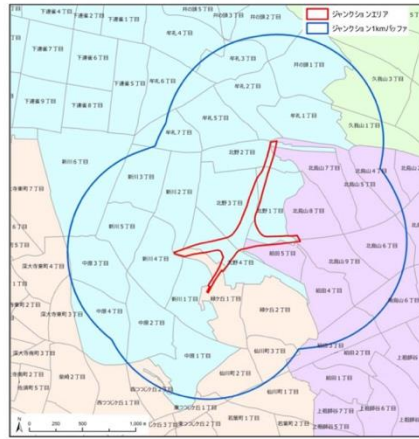


※緑地等はイメージになります。

- 都市農地、公園、並木などが存在する北野は三鷹市の農風景を象徴する地域である。
- ハピネスセンター前のケヤキ並木、農家の屋敷林、農地の緑は、北野のまちのシンボルであり、地域住民の精神的な拠りどころとなっている。
- 北野の農地は「農ある風景」として、三鷹市の原風景となっている。
- 東八道路の沿道は、商業等のにぎわいの景観が求められる。
- 新たな都市計画道路の沿道では農地や緑地と調和したまち並みの景観が求められる。

6

利用者層の想定



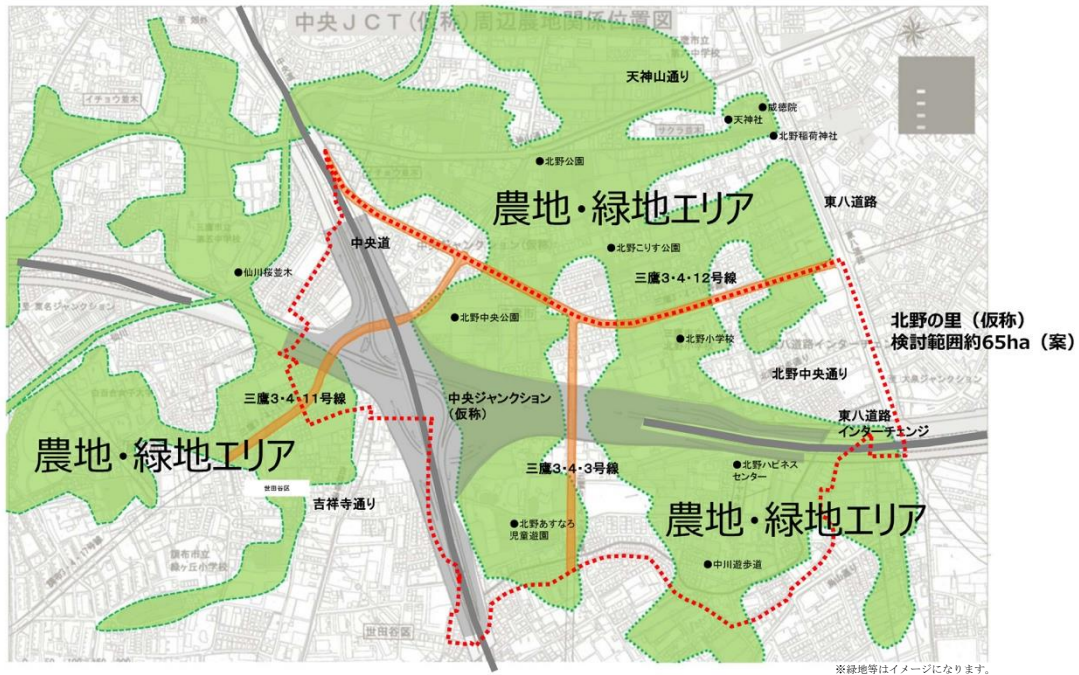
- 北野の里（仮称）の1km圏内には三鷹市民約50,000人が在住している。北野の里（仮称）の蓋かけ上部空間等は、多様な「農」空間として、広域から利用者が来園する可能性がある。
- 北野小学校、第6中学校などによる農の取り組みが望まれている。
- 公園管理や運営の取組みに(株)三鷹ファームや花と緑のまち創造協会、ボランティア団体などの各種団体が参加することが考えられる。
- 利用者は、公共交通機関又は自転車・徒歩が基本となるが、車での来園も一部施設により想定される。また、イベント時などにおける駐車場の検討が必要となる。

(内 公園等の検討約 6～7 ha 高架下約1ha)



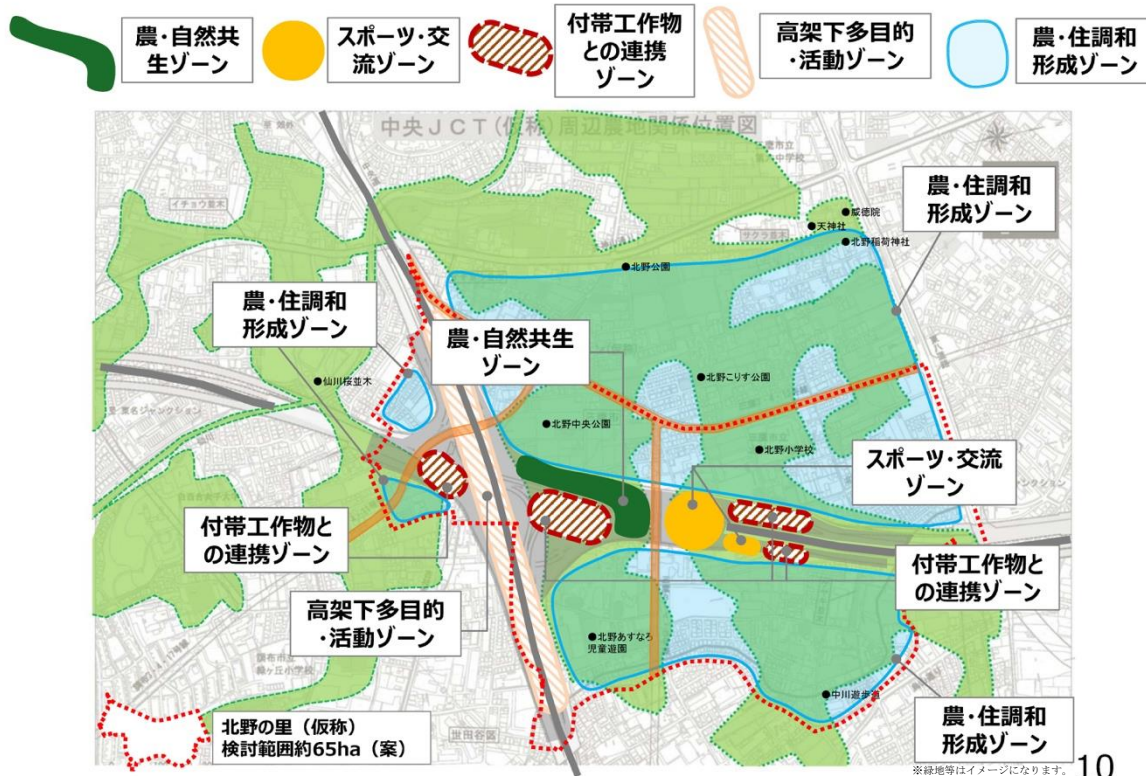
8

既存の緑地と周辺農地の重ね合わせ図



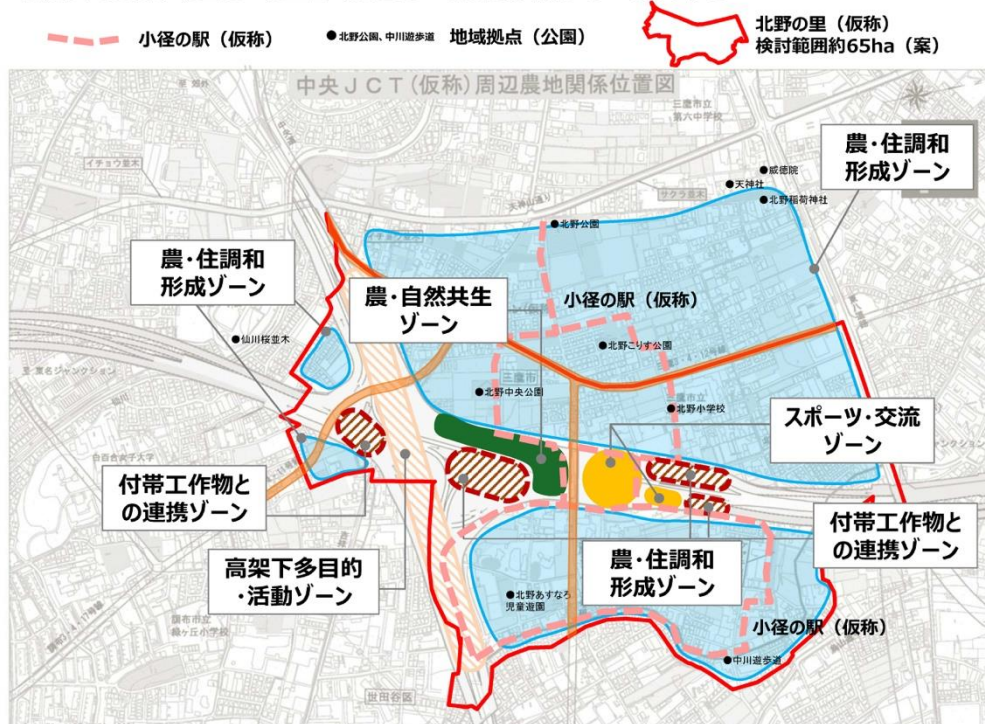
9

蓋かけ上部空間等を中心としたゾーニング（素案）



10

蓋かけ上部空間等を中心としたアクティビティ（素案） 「散策路、遊歩道」など歩行動線の考え方



11

各ゾーンにおける主な検討イメージ



12